

科目名	国際政治経済学	英文表記	International Political Economy (IPE)	平成23年5月25日		
科目コード	6006					
教員名：高嶺 司				修正		
技術職員名：						
対象学科／専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
全コース	専2	選	学修	2単位	講義	後期
目標及び評価方法	目標項目			評価方法及びその割合		
	① 国や地域の範囲をこえた政治および経済活動の拡大と活発化について学ぶ。			① 小論文 (50%)		
	② 基礎的な国際政治理論を学ぶ。			② Discussion (50%)		
	③ ニュース、商品、情報、資本、技術、文化、感染症などがすばやく全世界を駆けまわる状況とその問題点を学ぶ。					
④ 共通の社会空間としてのworldの出現とcosmopolitanismについて学ぶ。						
高専目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	全プログラム
	○		◎	(準)	JABEEプログラム教育目標	MS(C-1), IC(A-1), MI(C-1), BR(C-1)
授業概要、方針、履修上の注意	過去30年間、政治経済から文化や科学や環境に至るあらゆる領域において「地球規模のスケールをともなった相互接続(Globalization)」が顕著となってきている。本講義では、Globalizationをキーワードに国際政治経済の動向と問題点を深く考察する。					
教科書・教材	1. Alexander Wendt, 'Anarchy is What States Make of It: The Social Construction of Power Politics', International Organization, vol. 46, no. 2, 1992, pp. 391-425. 2. Peter Katzenstein (ed.), The Culture of National Security: Norms and Identity in World Politics, New York: Columbia University Press, 1996. 3. Edward A. Kolodziej, Security and International Relations, Cambridge University Press, 2005. 4. John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens (eds.), The Globalization of World Politics, Oxford: Oxford University Press, 2008. 5. Steve Smith, Amelia Hadfield, Tim Dunne (eds.), Foreign policy: Theories, Actors, Cases, Oxford: Oxford University Press, 2008. 6. Samuel Huntington, The Clash of Civilizations and the Remaking of the World Order, New York: Simon & Schuster, 1996. 7. Tsukasa Takamine, Japan's Development Aid to China, London and New York: Routledge, 2006.					
<b>授 業 計 画</b>						
回数	授 業 項 目	時間	授 業 内 容			予 習 項 目
1	はじめに	2	講義概要、評価基準、参考文献の解説			
2	自中関係	2	自中関係の基本構図について			
3	Globalization	2	Globalizationと世界について			
4	世界経済	2	国際貿易と金融のシステムについて			
5	情報通信革命	2	情報通信革命と国際政治について			
6	Regionalism	2	EUの地域統合と地域主義について			
7	Transnational actors	2	NGOs, TNCs, 国境なき医師団について			
8	国際政治理論	2	新現実主義、新リベラル主義、社会構築主義			
9	気候変動問題	2	気候変動と国際環境政治について			
10	安全保障	2	戦争と国際安全保障について			
11	国際テロリズム	2	アルカイダと核兵器の拡散問題について			
12	人権問題	2	基本的人権と人間の安全保障			
13	貧困と開発	2	飢餓、貧困、開発援助について			
14	文明の衝突	2	ハンチントンと文明の衝突論について			
15	総括	2	講義内容の総括と発展について			
学習時間合計		30	実時間		25	
学修単位における自学自習時間の保証（レポート頻度など） 授業の予習・復習およびレポートにより学習時間を保証する						

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(50分=1、100分=2)